

ETAP TIP - No. 002aJ

プロジェクトビュー : Part 1a - プレゼンテーション (1/2)

適用できる ETAP のバージョン : 7.5.2

(これら以前のバージョンでは、以下の説明手順とは多少異なることがあります。)

ETAP プロジェクトに関連する全ての元素は“プロジェクトビュー”ウィンドウから見るすることができます。“プロジェクトビュー”ウィンドウは、“ユーザ名 (この例では、Eltechs)”と“アクセスレベル (この例では、プロジェクトエディタ)”を組み合わせたタイトル (ウィンドウ名) を持ち、Windows エクスプローラに似た グラフィック ツリー で表現されます。幹 (プロジェクトのファイル名とロケーションパス から構成 : この例では EXAMPLE-ANSI - C:\ETAP 752 JP\Example-ANSI) および

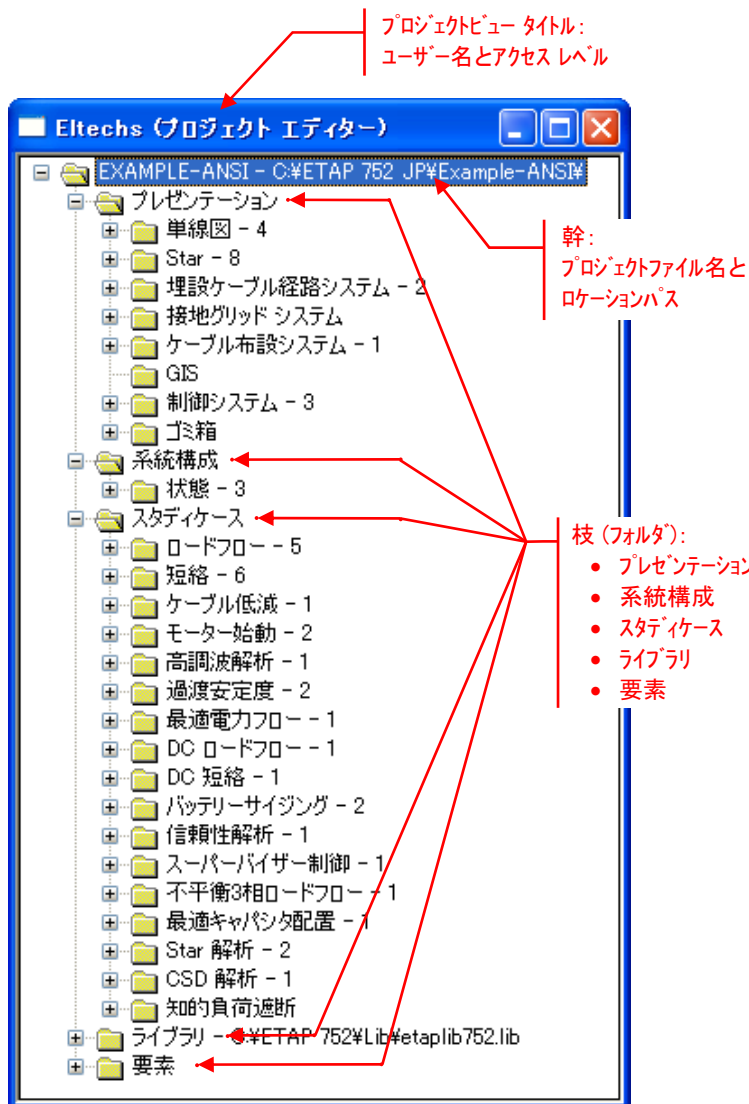


図 1 : プロジェクトビュー

5つの 枝 (フォルダ)、つまり
プレゼンテーション

システム構成


スタディケース

ライブラリ と 要素 から構成されています。 図 1 参照

ETAP を立ち上げ、フォルダ C:\ETAP 75X JP\Example-ANSIにある “Example-ANSI.OTI” プロジェクトを開き、下記の操作を試してみましょう。

(ここで C: は ETAP プログラムをインストールしたドライブ、ETAP75X JP は ETAP のバージョン)

“プロジェクトビュー”ウィンドウにアクセスするには:

システム ツールバー (通常は画面の左に位置している) から “プロジェクトビュー” アイコン  をクリックします。

[または]

“ウィンドウ”メニューから “1 YYY (XXX)” を選びます。YYY は入力したユーザー名 (この例では、Eltechs)、XXX は ETAP にログインした時に選択したアクセス レベル (この例では、プロジェクト エディター) です。



1. プレゼンテーション

プレゼンテーションフォルダには、次の 8 つのメニューが含まれます。

1.1 単線図

このフォルダには、系統解析用に このプロジェクトで作成した 単線結線図プレゼンテーション が含まれています。新しいプロジェクトを作成すると、デフォルトで自動的に OL1V という名称のブランク (真っ白い画面) の “単線結線図プレゼンテーション” が作成されます。詳細は ETAP TIP-001J を参照下さい

1.2 Star

このフォルダには、そのプロジェクトで作成した “保護装置の協調図 (TCC プロット)” が含まれています。 (この協調図 (TCC プロット) を ETAP 用語では “STAR ビュー” プレゼンテーションと呼ぶ)

プロジェクトビューの “Star” フォルダを右クリックして、新しい “Star ビュー (TCC プロット)” を作成する (新規作成) することができます。 図 2 参照

既存の “Star ビュー” 名を右クリックして、“Star ビュー” を表示、保存、属性(リネーム)、または消去することができます。 図 3 参照

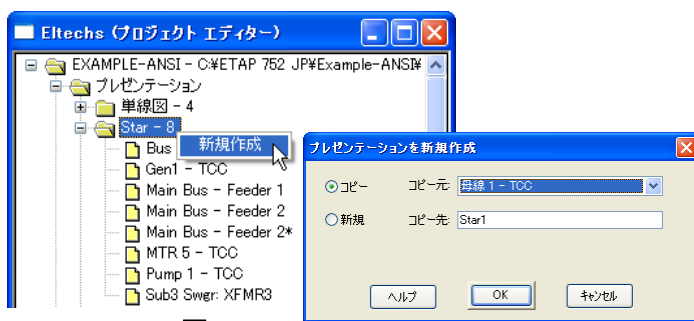


図 2

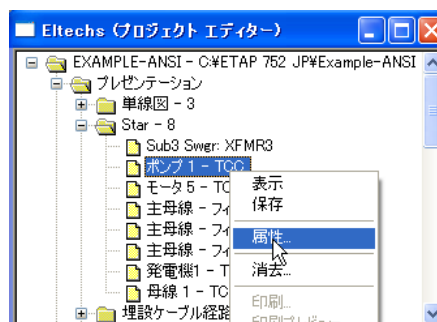


図 3

システムツールバーの “Star システム” アイコン (通常は画面の左側にある) をクリックすると Star モードになり、すでにこのプロジェクトで作成されている (“プレゼンテーション” ツールバー に表示されている) “Star ビュー (TCC プロット)” が自動的に開きます (または、画面上隠れていた “Star ビュー” がアクティブになります)。

Star モード では、“プレゼンテーション” ツールバー のプルダウンボックスから既存の “Star ビュー” を選択し開くことができます。 図 4 参照

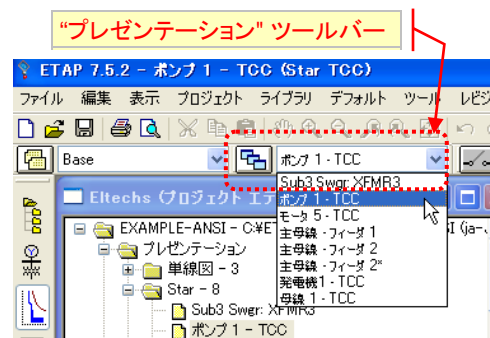


図 4

注記:

- 1) 新しいプロジェクトが作成された時、自動的に “Star ビュー (TCC プロット)” は作成されません。必要に応じて “Star ビュー” を作成して下さい。
- 2) “Star ビュー” プレゼンテーションを作成するには、ETAP ライセンスに “保護装置 - Star” プログラムが含まれていなければなりません。ライセンス情報を確認するには、メインメニューの “ヘルプ” (画面の上にある) をクリックし、プルダウンの “ETAP について” を選び “能力” タブをクリックします。グレーで表示されているプログラムはライセンスに含まれていません。 図 5 参照

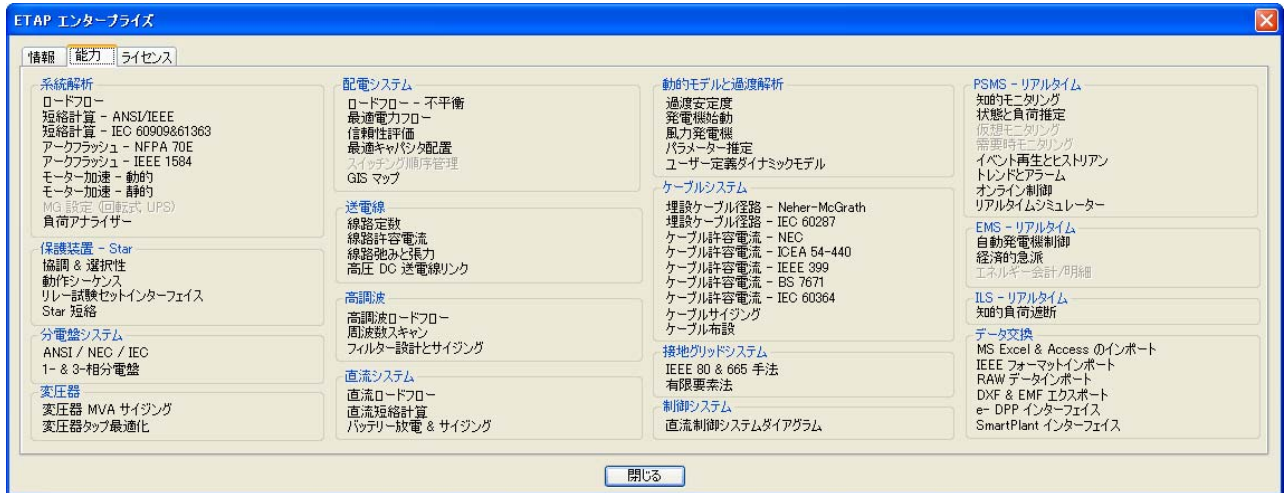



図 5 : ETAP ライセンス情報

1.3 埋設ケーブル経路システム

このフォルダには、埋設ケーブル経路システムのケーブル解析用に、このプロジェクトに用意されている埋設ケーブル経路システムのグラフィックプレゼンテーションが含まれています。

システムツールバーの“地下埋設ケーブル経路システム”アイコン  (通常は画面の左側にある) をクリックすると、すでにこのプロジェクトで作成されている (“プレゼンテーション” ツールバーに表示されている) “UGS プレゼンテーション” が自動的に開きます (または、画面上隠れていた “UGS プレゼンテーション” がアクティブになります)。地下埋設ケーブル経路システムでは、“プレゼンテーション” ツールバー のプルダウン ボックスから既存の “UGS プレゼンテーション” を選択し開くことができます。 図 4 参照 (ただし、選択したプログラムにより、表示されるプレゼンテーション名が異なります)

埋設ケーブル経路システムは、埋設ケーブル経路 (断面) をモデル化して関連する地下埋設ケーブル経路システムの解析を実行します。 図6参照

注記:

- 1) 新しいプロジェクトが作成された時、自動的に “UGS プレゼンテーション” は作成されません。必要に応じて “UGS プレゼンテーション” を作成して下さい。
- 2) “UGS プレゼンテーション” を作成してスタディを実行するには、ETAP ライセンスに “埋設ケーブル経路” プログラムが含まれていなければなりません。 図 5 参照

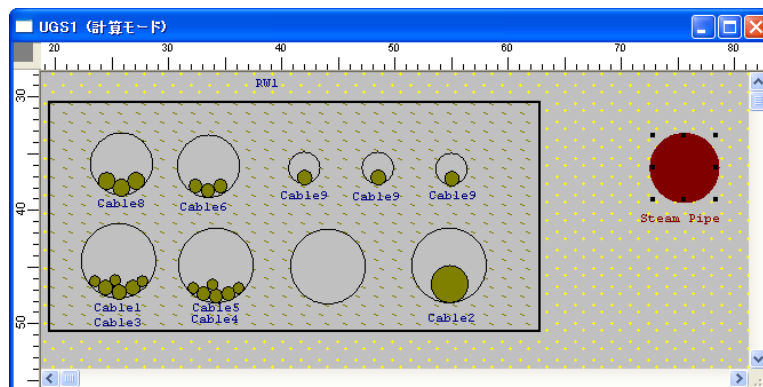


図6 : 埋設ケーブル経路システム プレゼンテーションのサンプル

1.4 接地グリッド システム

このフォルダには、接地グリッドシステムの接地グリッド解析用に、このプロジェクトに用意されている接地グリッドシステムのグラフィック プレゼンテーションが含まれています。

接地グリッド システム プレゼンテーション (接地グリッド設計) を作成するステップは次のとおりです。

- a) 単線結線図のプレゼンテーション上の“単線図”を開く。 1.1 項参照
- b) “モード” ツールバーから鉛筆アイコンをクリックし、“編集”モードをアクティブにします。 図 7 参照
- c) “交流エディター” ツールバーから“接地グリッド”アイコンをクリック、単線結線図のどこかに マウス ポインタをおきます (グリッドのシンボルに変わる)。
- d) クリックして外側周辺にある四角のハンドルをドラッグすることで、接地グリッドシンボルのサイズを変更できます。
- e) グリッド シンボルをクリックして、右ボタン クリックすることにより次のコマンドにアクセスできます。

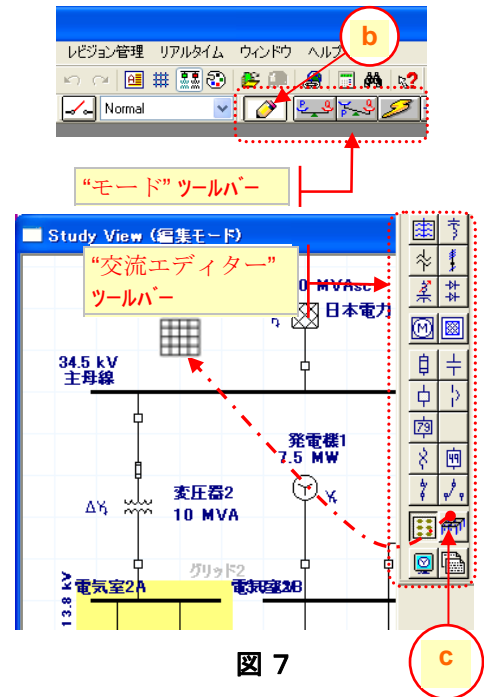
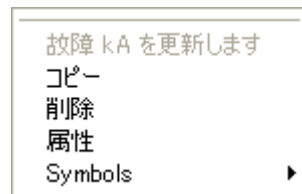



図 7

プロジェクト ビューから、“接地グリッド システム” 名を右クリックして、図 3 のように適切な操作を選ぶことで、既存の“接地グリッドプレゼンテーション”を表示、検索、属性(リネーム) することができます。

システムツールバーの“接地グリッドシステム”アイコン  (通常は画面の左側にある) をクリックすると、すでにこのプロジェクトで作成されている (“プレゼンテーション” ツールバー に表示されている) “GGS プレゼンテーション” が自動的に開きます (または、画面上隠れていた “GGS プレゼンテーション” がアクティブになります)。

注記:

- 1) 新しいプロジェクトが作成された時、自動的に “GGS プレゼンテーション” は作成されません。必要に応じて “GGS プレゼンテーション” を作成して下さい。
- 2) “GGS プレゼンテーション” を作成してスタディを実行するには、ETAP ライセンスに “接地グリッドシステム” プログラムがが含まれていなければなりません。 図 5 参照
- 3) 新しく作成された “接地グリッドシステム” は、スタディモデルとしての条件設定が必要です。(単線結線図から “グリッド シンボル” をダブルクリックする、あるいは プロジェクト ビューから “GGS プレゼンテーション” 名を右クリックして “表示” コマンドを選ぶなどの操作により) 新たに作成した “接地グリッドシステム” プレゼンテーション を開くための操作をすると、最初に “ETAP 接地グリッド設計” ダイアログ ボックスが現われ、スタディモデル IEEE 手法 または 有限要素法 (FEM) を選択するよう表示されます。

ETAP TIP – No. 002bJ

プロジェクトビュー：Part 1b - プレゼンテーション (2/2)

適用できる ETAP のバージョン：7.5.2


(これら以前のバージョンでは、下の説明手順とは多少異なることがあります。)

これは、ETAP TIP - No. 002aJ (プレゼンテーション) の続きです。

1.5 ケーブル布設システム

このフォルダには、電線管経路のケーブル布設解析用に、このプロジェクトに用意されているケーブル布設システムのグラフィックプレゼンテーションが含まれています。 **図8参照**

図2のようにプロジェクトビューから“ケーブル布設システム”フォルダを右クリックして新しい“ケーブル布設プレゼンテーション”を作成する、あるいは既存の“ケーブル布設プレゼンテーション”名を右クリックして図3のように適切な操作を選ぶことで、“ケーブル布設プレゼンテーション”を表示、属性(リネーム)、または消去することができます。

システムツールバーの“ケーブル布設システム”アイコン  (通常は画面の左側にある) をクリックすると、すでにこのプロジェクトで作成されている (“プレゼンテーション” ツールバー に表示されている) “Cable Pulling プレゼンテーション” が自動的に開きます (または、画面上隠れていた “UGS プレゼンテーション” がアクティブになります)。ケーブル布設システムでは、“プレゼンテーション” ツールバー のプルダウン ボックスから既存の “Cable Pulling プレゼンテーション” を選択し開くことができます。 **図4参照** (ただし、選択したプログラムにより、表示されるプレゼンテーション名が異なります)

注記:

- 1) 新しいプロジェクトが作成された時、自動的に “ケーブル布設プレゼンテーション” は作成されません。必要に応じて “ケーブル布設プレゼンテーション” を作成して下さい。
- 2) “ケーブル布設プレゼンテーション” を作成してスタディを実行するには、ETAP ライセンスに “ケーブル布設” が含まれていなければなりません。 **図5参照**

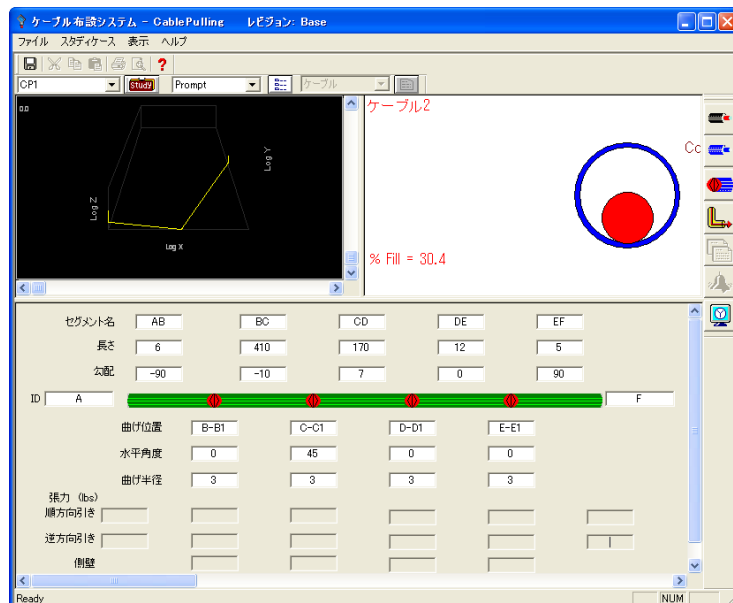


図8：ケーブル布設プレゼンテーションのサンプル

1.6 地理情報システム (GIS)

このフォルダには、地理情報システム (GIS) の検討のために、このプロジェクトに用意されている“GIS プレゼンテーション (ETAP GISプレゼンテーション)”が含まれています。“GISプレゼンテーション”は、ESRI ArcGIS マップのドキュメントとリンクしたプレゼンテーションを表現、表示することができます。 図9参照

“GISプレゼンテーション”はETAPの他プレゼンテーションと同様に作成することができますが、ESRI ArcGIS マップドキュメントにリンクするための追加情報が必要です。“GISプレゼンテーション”が作成されると、“Select Map”エディタが表示されます。

注記:

- 1) 新しいプロジェクトが作成された時、自動的に“GISプレゼンテーション”は作成されません。必要に応じて“GISプレゼンテーション”を作成して下さい。
- 2) “GISプレゼンテーション”を作成し、その機能を利用するには、ETAPライセンスに“GISマップ”と“ESRI ArcGIS”ソフトウェアがインストールされていなければなりません。

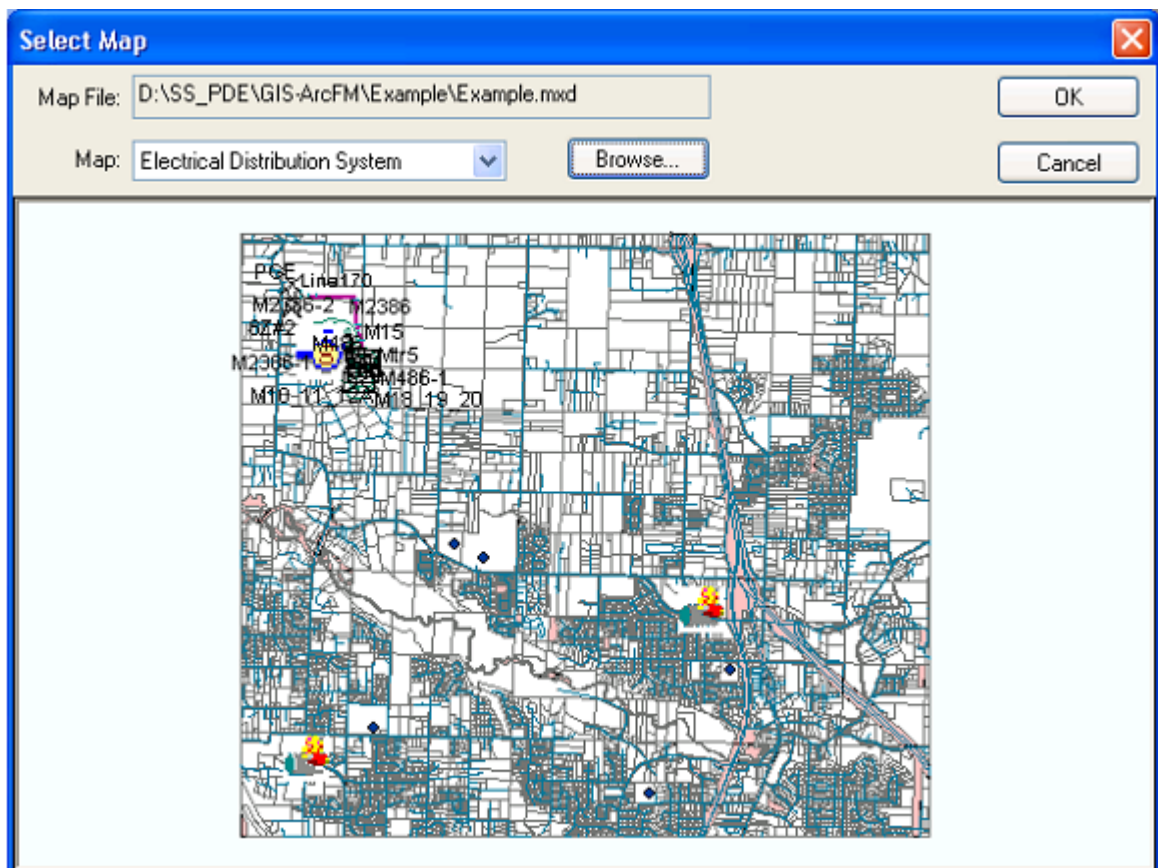


図9 : MapドキュメントとETAPとのサンプルリンク

1.7 制御システム

このフォルダには、制御システムダイアグラム (CSD) の検討のために、このプロジェクトに用意されている制御システムダイアグラム (CSD) のプレゼンテーションが含まれています。制御システムダイアグラム (CSD) は、突入状態を含むソレノイド、リレー、制御接点、マルチシーケンス接点、アクチュエータなどの動作シーケンスのシミュレーションが可能です。CSD には、限界・危険警報を含む任意の時点におけるピックアップ・ドロップアウト電圧、損失、電流フローを決定することができます。

図2のようにプロジェクトビューから“制御システム”フォルダを右クリックして新しい“CSD プレゼンテーション”を作成する、あるいは既存の“CSD プレゼンテーション”名を右クリックして図3のように適切な操作を選ぶことにより、“CSD プレゼンテーション”を表示、保存、属性(リネーム)、消去、印刷、または印刷プレビューすることができます。


システムツールバーの“制御システムダイアグラム(CSD)”アイコン  (通常は画面の左側にある) をクリックすると、すでにこのプロジェクトで作成されている (“プレゼンテーション” ツールバー に表示されている) “CSD プレゼンテーション” が自動的に開きます (または、画面上隠れていた “CSD プレゼンテーション” がアクティブになります)。制御システムダイアグラム (CSD) では、“プレゼンテーション” ツールバー のプルダウン ボックスから既存の “CSD プレゼンテーション” を選択し開くことができます。

図4参照 (ただし、選択したプログラムにより、表示されるプレゼンテーション名が異なります)

注記:

- 1) 新しいプロジェクトが作成された時、自動的に “CSD プレゼンテーション” は作成されません。必要に応じて “CSD プレゼンテーション” を作成して下さい。
- 2) “CSD プレゼンテーション” を作成してスタディを実行するには、ETAP ライセンスに “制御システム” が含まれていなければなりません。 図5参照

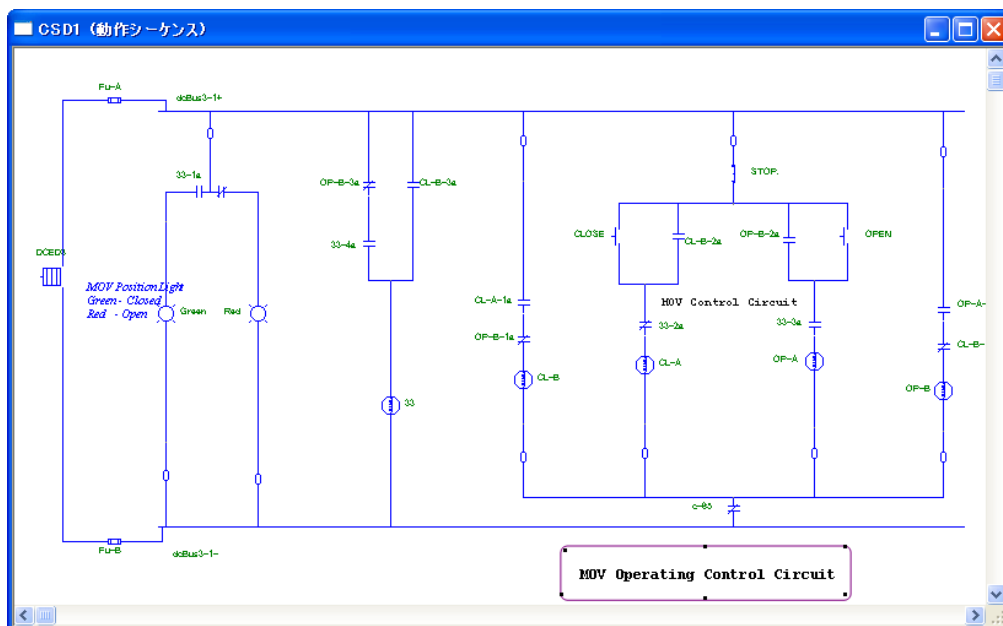


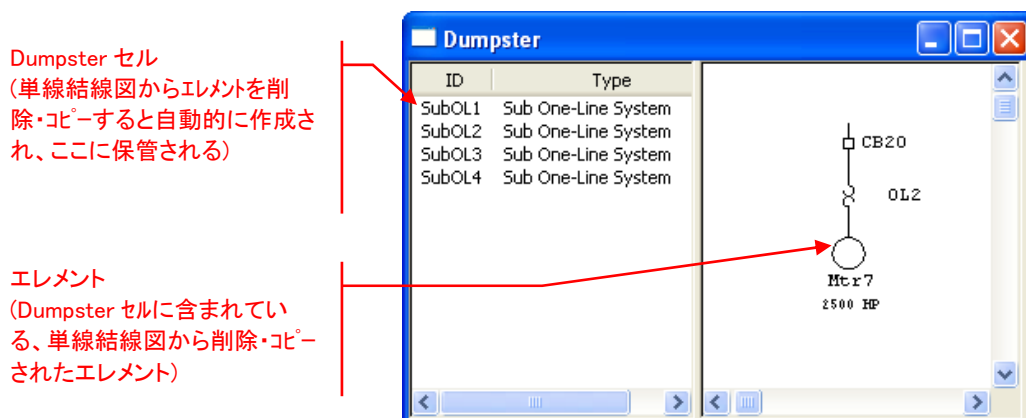
図5 : CSD プレゼンテーションのサンプル

1.8 ゴミ箱


このフォルダには、システムゴミ箱 (システム Dumpster) が含まれています。“システム Dumpster”には、単線結線図から削除・コピーしたエレメントを含む多くのセルが保管されています。

単線結線図でエレメントまたはエレメントのグループを削除すると、ETAP によってそれらは Dumpster セル に保管されます。これらのセルは意図的に消去されるまで“システム Dumpster”に保管されています。セルが“システム Dumpster”から消去されると、プロジェクトデータベースからセルにある全エレメントが削除されます。

エレメントやエレメントのグループが Dumpster セル の中に保管されていれば、セルの内容を“システム Dumpster”から単線結線図に移動・コピーできます。言い方を変えると、単線結線図を作成している間は、“システム Dumpster”によってエレメントの便利な保管場所が提供されていると言えます。



Dumpster セルの移動またはコピー：

- プロジェクトビューで、ツリーを“プレゼンテーション” → “ゴミ箱”の順に拡げて、“システム Dumpster”をダブルクリックするか、右クリックして“表示”コマンドを選びます。または、システムツールバー (通常はメイン画面の左に位置している) から“システムゴミ箱”のアイコン  をクリックします。
- Dumpster ウィンドウで、単線結線図に移動またはコピーしたいセルを選びます。(選ばれたセルの中のエレメントが Dumpster ウィンドウの右側に表示されます。)
- 単線結線図をアクティブにして、“編集”モードアイコン (鉛筆アイコン) をクリックします。
- 単線結線図の任意の白地 (何もない所) を右クリックします。表示されたポップアップメニューから、“貼り付け”または“ゴミ箱から移動”を選びます。(“貼り付け”を選ぶと、ごみ箱からセルの中身が単線結線図にコピーされます。“ゴミ箱から移動”を選ぶと、Dumpster からセルの中身が単線結線図に移動され Dumpster から消去されます。)

Dumpster セルを完全に削除(消去)する：

- “システムゴミ箱”を開いて削除したいセルを選びます。
- メインメニュー (画面の左上のサイドにある) から、“編集” → “消去”をクリックします。“システム Dumpster”にある全てのセルを一挙に消去する場合は“全て消去”をクリックします。